

美術を背景(歴史・社会)から読む -東西の交流を軸に-

講義日	担当教員	テーマ
1 9/11(土)	東アジア美術研究所所長 越智裕二郎	美術と社会—大航海時代と南蛮美術
2 9/18(土)	神戸大学大学院人文学研究科准教授 宮下規久朗	カトリック改革と美術 カラヴァッジョを中心に
3 9/25(土)	京都大学大学院文学研究科教授 中村俊春	オランダ市民社会と美術 レンブラントとフェルメール
4 10/ 2(土)	京都国立博物館連携協力室長 山下善也	長谷川等伯とその時代—秀吉の眼を歎ばせ、狩野派を脅かした桃山の画家をめぐる—
5 10/16(土)	大阪市立美術館学芸員 土井久美子	ヨーロッパに輸出された日本の蒔絵
6 10/23(土)	国際日本文化研究センター研究部教授 稲賀繁美	オリエンタリズム・ジャポニズム
7 10/30(土)	長崎純心大学非常勤講師 原田博二	長崎と対外文化交流 —来舶清人と長崎派の画家、特に川原慶賀—
8 11/ 6(土)	京都国立博物館学芸部美術室研究員 呉孟晋	中国の近代化と美術
9 11/13(土)	福岡アジア美術館収集展示係長 ラワンチャイクン 寿子	広東・上海・北京 —三都市を巡る「もうひとつの」中国近代美術—
10 11/20(土)	九州大学人文科学研究院教授 後小路雅弘	東南アジア 近代美術の誕生

講義期間 9/11(土)~10回 13:00~14:30

受講料

12,000円

コーディネーター 東アジア美術研究所 所長 越智 裕二郎

科目内容

美術作品の鑑賞は一点一点が基本であり、また論じるのも一点を基本に行うことが多いが、美術作品の制作は背景の社会と密接に結びついており、過去の多くの作品が注文制作であったことを考えればそれも当然のことである。美術作品は同時代の空気を吸って制作されている。美術作品をその歴史的、社会的背景を絡めて読んでいくことは、作品理解を深める上において必須のことと言えよう。

この講座では、大航海時代を経て地球規模で社会や歴史が動き始めた時、美術もあわせていかに変化をとげていったのか、近代を含む10のトピックに絞り、美術の東西交流にも一つの視点をおいて、著名な作品や身近な作品・資料を例にその連関を探り、絵画の理解を深めていただく一助としたい。